



中学校卒業まで医療費を窓口無料に

4000筆を超える署名添え、請願が提出されました

開催中の9月市議会に、4046筆の署名を添えた「中学校卒業まで医療費無料化を求める請願書」が新日本婦人の会江南支部から提出されました。

子育て世代や市内の医院等の協力も得て、2ヶ月間にわたり会員や市民が署名運動を展開。期待の声がつぎつぎに広がった結果、4000筆を超える多くの署名が寄せられました。請願は9月19日に厚生文教委員会で審議されたのち、最終日となる25日の本会議で採決されます。

遅れた江南の医療費助成を前に

県内ではすでに約8割の自治体が通院・入院ともに中卒まで無料となっています。江南市のように、1割とはいえ小学生に自己負担を課すのは6自治体のみ。通院助成の対象年齢が小6まで、小4から1割負担・償還払い（いったん3割を窓口で支払い、後で2割分を払い戻し）という江南市は、県内で最も遅れた自治体の一つです。

江南市の償還払い制度では、払い戻しを受けようとすると、医療機関ごと、診察月ごと、入院と外来を分けて申請書を提出しなければなりません。これでは申請しないで済ます保護者が多いのではないのでしょうか。一刻も早く窓口無料の実現が必要です。

1割負担なくし無料に

医療費がタダになると夜間・休日診療（コンビニ受診）が増え医者への激務を招くとの心配があります。しかし、全国一



の子ども医療費無料制度を持つ群馬県では、完全無料化によりむしろコンビニ受診が減り、一人あたり医療費も減少。虫歯処置完了者が急増し15歳以下の歯の健康が大幅に改善するなど、良いことづくめです。

医療費無料化は未来への投資。国として制度化することはもちろん必要ですが、県・市でも積極的に推進してほしいものです。

原発からの撤退、消費税10%増税の中止を求める請願も

「エネルギー基本計画を撤回し、原発からのすみやかな撤退を求める請願書」が482筆の署名を添えて革新・江南の会から、「消費税増税の撤回を求める意見書の提出を求める請願」が尾北民主商工会から出されました。

これらの請願は、19日の総務委員会で審議予定です。

今回から、請願提出者が意見陳述できるようになりました。日本共産党議員団はすべての請願の紹介議員となっています。

ゆきづまった ごみ処理施設候補地問題



白紙撤回し、ごみ減量を正面に据えて一からやり直しを

2市2町新ごみ処理施設候補地の地元同意について、堀市長が自ら期限としてきた9月末日までに得るのが厳しいことが、9月議会一般質問の中で明らかになりました。

約1年9ヶ月前、堀市長が江南市内に建設すると一方的に名乗りをあげ、中般若町北浦地区を候補地に選定。上からの押し付けと強引な同意取得の手法に、中般若町住民や隣接する扶桑町小淵区の住民が反発。3月に実施された小淵区の住民アンケートでは圧倒的に反対多数の意思表示がなされていました。

行き詰まりの最大の原因は、正式な候補地・犬山市池野地区を凍結状態にして結論を出すことなく、中般若町北浦地区を「江南市が責任を持って速やかに地元及び地権者の同意を得、地元同意が得られた時点で新ごみ処理施設の建設地とする」と決めた、第一小ブロック会議のスジの通らないやり方にあるのではないのでしょうか。このため、犬山市や大口町、扶桑町は地

元同意の取得に責任を持たず、他人事状態が続いてきました。

市長の責任は重大

市長の責任は重大で、進退問題に発展することは避けられません。9月末という住民との約束期限を守って中般若町北浦を白紙に戻し、犬山市池野地区もブロック会議として撤回した上で、住民参加で一から公正公平に、ごみ減量を正面に据えて選び直すことが必要です。

しかし堀市長は「新ごみ処理場問題を途中で投げ出すような無責任なことは私にはできません」などと来年4月の統一地方選挙に立候補を表明しました。居直りは許されません。

行き詰った新ごみ処理施設問題を協議する第一小ブロック会議は、9月22日17時から江南市防災センターで開催されます。傍聴も可能です。